

人口と感染症の数理

個体群ダイナミクスは数理生物学において最も古くから研究されてきた分野であるが、過去30年間に個体の様々な特性を反映できる構造化個体群モデルの手法が、発展方程式の理論と相互作用しながら非常に発展を遂げた。本講演では、構造化個体群モデルのルーツである年齢構造をもつ人口モデルと、そのもっとも重要な応用としての感染症数理モデルをとりあげて、その基本的な概念や構造を紹介する。これらのモデルは人口学と感染症疫学において核心的地位を占めるものであり、我が国が直面する人口問題や新興再興感染症流行の問題を考えていく上で不可欠な数学的ツールである。

2013年 **10月16日** (水) 16:30~18:00

慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎1階 シンポジウムスペース

参加費：無料（学生の来場歓迎）

会場準備の都合上、塾外の方は事前申し込みをお願いいたします



講師：稲葉 寿氏

◇東京大学大学院数理科学研究科 准教授

1982年京都大学理学部数学系卒後、厚生省人口問題研究所研究員となり、以後、主任研究官、室長を歴任。その間、1988年~1990年、ライデン大学理論生物学研究所、数学・コンピュータ科学研究所（アムステルダム）にて客員研究員。1989年11月にライデン大学よりPhD取得。1996年東京大学大学院数理科学研究科助教授、2007年同准教授となり、現在に至る。

専門領域：数理人口学・数理生物学

研究内容：人口や感染症の数理モデル、とくに年齢構造化個体群ダイナミクスの数理解析

主な著書：『数理人口学』（東京大学出版会、2002年）

『現代人口学の射程』（編著、ミネルヴァ書房、2007年）

『感染症の数理モデル』（編著、培風館、2008年）

